



## ～どうすれば人類の孤独を解消できるか～



代表取締役 CEO 所長 吉藤 オリ氏



飲み物運ぶ OriHime-D

### 株式会社オリイ研究所

日本橋にある分身ロボットカフェ DAWNver. βでは OriHime や OriHime-D と呼ばれる分身ロボットが接客しています。テーブルには小さな分身ロボットの OriHime がおり、カフェの説明や注文を受けてくれます。大きな分身ロボットの OriHime-D は明るい声で案内をし、お冷を運んでくれます。どちらの分身ロボットも一緒に会話を楽しむことができます。そのカフェを運営しているのがオリイ研究所です。所長の吉藤氏が「どうすれば人類の孤独を解消できるのか」をミッションに掲げ、次の世の中のためにどうすれば一緒に生きていけるのか、働ける場が作れるのか、日々パイロットと共に研究しています。パイロットとは分身ロボットを操縦している方の呼び名です。障害により寝たきりの方、疾病等により外出が困難な方、海外に移住している方など様々な方が採用され活躍しています。

#### ● OriHime の開発

OriHime 開発の背景には、共同開発をしていた大切な友人の存在が大きかったと話されます。事故で頸椎損傷を負った寝たきりの親友は「外に出られないことのハンディキャップは出会いと発見がないこと。」と話していました。それを聞いて、体を動かすことができれば出会いと発見を得ることができ、働くことも可能だと考えたと話されます。例えば後輩ができ仕事を教えることで対話が生み出されます。働くことを通じて一人ひとりがここにいる理由ができ、役割へとつながっていきます。その一歩目がなく、

それがハンディキャップとなることが分かりました。その友人の願いをテクノロジーを使い叶える事が出来ないかと、「心の移動能力」「対話能力」「役割を得ること」を揃えることができる「OriHime」を一緒に改良・開発をしていきました。

#### ● 役割があることの大切さ

居場所があることは役割があることです。なぜそこにいるのか聞かれて答えられる場所、そこにいて良い理由がある状態が居場所であり、役割の機能を果たしていると思います。

どのような人もその場所にいればそこで役割を演じますが、ここには自分らしさはありません。このカフェの場合は店員であることが役割です。会話をするだけで、どう楽しませたら良いかを考えることが出来、自分らしさや工夫する余地が生まれます。お願いされた業務を淡々とこなすだけでは機械のようになってしまいます。自分らしさを自覚し成長につなげ、みんなに役割がある適材適所社会を、あらゆる人がつながることが出来る社会を、テクノロジーを使って作ることを目指しています。

#### ● 関係性から得られること

人と人の関係性は AI にはならないと思います。その人の能力が低下しても他の人ではなく、その人に仕事をお願いしたいという関係性は変化しません。その関係性から病気のことが身近になり、知ることができます。SDGs やダイバーシティなど会社で取り組むような動きがあるなか、OriHime を導入した

ことで周囲の人が自発的に考え、工夫し、現場の意識や雰囲気が変わっていくことができました。

今はカフェに来て OriHime も導入したいが、パイロットと一緒に働きたいという声もあり、実際にその企業で働くこともあり、出会いの場にもなっています。ここで働くパイロットが他のお店でも働くことでお客様がそのお店に出向いてくれることもあります。今はオンラインで会議をする機会が多いと思いますが、会議の時だけ集まり、時間が来れば終了するようになっていきます。もし、会うことができれば、仕事帰りに会話が弾み意気投合するかもしれません。ここにいる理由、役割があり、必要な時間と必要な時間の間にある不必要な時間で雑談をすることで関係性を築きやすくなります。

### ●より多くの方が憧れを持てる未来を目指して

今、課題に感じていることはこのカフェでは役割が有限であることです。どの仕事でも役割や仕事は有限であり、どのようにして他にも仕事を増やせるのが課題となっています。雇える人数、活躍できる人数は有限であることは、関係性ができない、せっかく活躍したい人がいるのにできない、ステップアップしたいのにできないことにつながります。どうすれば必要とされる場ができるのか、これから考えていくことが求められると思います。つながりができるような空間があると、自身の病気のことを知ってもらう機会やその人がいるからまたお店に来て

くれるような関係性ができます。このカフェではスキルアップの先にキャリア設計として他のカフェでも接客ができるようにすることも考えています。

何かを進めていくにあたってこうするべきと言っても人はなかなか変わらないと思います。変化をするには楽しさやワクワクを感じるのがきっかけとなります。小学生は中学生に、中学生は高校生に憧れを持つと同じようにキャリアとして70歳、80歳、体が動かなくなっても ”こうなりたい!” と思えるかっこよさや憧れを創っていきたくて考えています。

### ●インタビューを終えて

分身ロボットを通じて働くことができる場があると今までよりも多くの方が活躍できる社会になってくるように感じました。遠隔で分身ロボットを操作して仕事をするだけではなく、コミュニケーションを取り、人とのつながりや出会いを大事にしながらお仕事をされていることが印象深かったです。このような働き方が今よりも広まっていくとより多くの方が活躍できる社会になっていくのではないかと思います。

(インタビュー・構成：村田 梓)



東京都中央区日本橋本町 3-8-3  
日本橋ライフサイエンスビルディング 3 5F  
コミュニケーションテクノロジーの研究開発  
および製造  
<https://orylab.com>

## EVENT × NEWS

### 就労相談室

～就職活動、職業訓練、職場の悩み～



千代田区障害者就労支援センターでは、千代田区にお住まいで障害のある方の「働くこと」についての相談をお受けしています。お気軽にご相談ください。

日時 水曜日 午前10時～午後4時 (予約制)  
場所 千代田区役所 3階 (千代田区九段南1-2-1)  
千代田区障害者就労支援センター  
対象 千代田区内にお住まいの身体障害、知的障害、精神障害および発達障害や高次脳機能障害、難病等のある方、又は、そのご家族  
※障害者手帳の有無は問いません。  
時間 1回の相談時間は、約30分ほどです。  
相談内容 就職活動についての相談、職業訓練情報、進路の相談、将来の働き方の相談、在職中の職場の悩み、復職の相談、障害者雇用について知りたいなど

### 令和4年度第1回地域交流会

6月2日(木) 千代田区役所 4階

### 障害のある方の「働く」を考える パート

～大学からのキャリア形成～



法政大学  
キャリアデザイン学部  
教授 田澤 実 氏

講演では、田澤氏より障害学生数の推移、どのような学生が入学しているのか、障害学生の修学支援、オンライン授業の支援例、障害学生の就職支援、学卒後の就労支援の中でも特に若者サポートステーション事業のお話をいただきました。

前半のパートでは、2020年度の障害学生数が減少したとの報告がありました。その背景には、コロナ禍によりオンライン授業に切り替わり、学生の実態把握が正確には難しかった、もしくは授業形態が変わったことにより、支援ニーズがそもそも発生しなかったのではないかと提示がありました。また、実際のオンライン授業での配慮事項について、カメラやチャットでの配慮(工夫)のお話がありました。

後半のパートでは、修学支援の先から就労支援への移行についてお話を伺いました。各大学での取り組み事例、関係機関との連携についてお話があり、その代表の一つである若者サポートステーションの実際について共有がありました。現在の若者サポートステーションでは、運営母体の強みが生かされることが多くあり、キャリア支援、不登校・ひきこもり支援、教育、福祉、職業・労働などそれぞれ運営母体の強みがあることを示していただきました。

最後に質疑応答があり、就労移行支援との連携、大学卒業後の定着率、企業に求めることなど質問が多数あがりました。

### 就労支援のお問い合わせ

電話：03-3264-2153 FAX：03-3556-1223

E-mail：chiyoda.syuroushien@city.chiyoda.lg.jp

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所 3階

発行：千代田区障害者就労支援センター 2022年第57号(令和4年10月24日発行)

取材協力：株式会社オリイ研究所

毎回、働く障害のある方やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。

